



## 小学生とスマートフォン

校長 田中 準三

新年明けましておめでとうございます。クリスマス、お正月と子供たちにとっては最高の冬休みが終わり、しめくくりの3学期が始まりました。特に6年生にとっては小学校生活最後の学期となります。「終わりよければ、すべて良し」の言葉通り、意義ある3学期になればと願っています。

「オンラインゲーム 高額課金にご注意」これは先日新聞で報道された記事の見出しです。国民生活センターによると、オンラインゲームの利用をめぐる相談が過去最高となり、2009年の約4倍になったそうです。中には4歳の幼児が10万円を使ったという驚くべき事例も報告されています。全国の消費生活センターなどに寄せられた相談の未成年の占める割合は、42%にのぼり、平均年齢が12.4歳、平均利用額が約23万円だったということです。ではこれだけ急激な相談件数増加の原因はどこにあるのでしょうか？

その第一に挙げられるのがスマートフォンの普及です。言うまでもなく、オンラインゲームはネットを介したものです。スマートフォンは携帯電話というよりむしろコンピュータに電話機能が附属したものと考える方が妥当です。また、スマートフォンの広がりにはオンラインゲームはもとより、無料通話・メールアプリの「LINE」などのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及につながっています。このSNSは上手に使用すれば便利で有効なコミュニケーションツールとなりますが、ひとつ間違えば大変な事態を引き起こすものでもあります。特に未成年者の使用によって問題となった事例が多く発覚しています。著名な教育関連企業のアンケート調査では、小学生の携帯電話所有率が26%で、そのうちスマートフォンの所有者は7.1%とまだ少数ですが、関東圏での1つの調査では、小学生の子供にスマートフォンを購入したい親が20.3%あったとのことです。（ただし、この調査対象者のうち41.9%が子供に携帯電話を持たせているということですが・・・。）

昨年の12月に本校で防犯教室を開きましたが、須磨署の警察官の方からの「携帯を持っている人は？」との高学年児童への問いに、かなりの数の手があがりました。私の子供が小学生だった時、携帯電話は大人のものであり、中学生になった頃ようやく高校生以上のアイテムとなりました。小学生が携帯を持つなど全く考えも及びませんでした。しかし、昨今の状況を勘案すると、小学生の多くが、携帯は言うに及ばずスマートフォンを持つ時代はそれほど遠い先ではないと思われます。事実、ある大学の先生は、「学童保育が小学3年生で終了し、学習塾などに通わせるのが4年生。このタイミングで子供に携帯を持たせる親が多いが、選ばれるのはスマホだ。」と指摘しています。スマートフォンの問題はもはや小学生には関係ないという時代ではありません。保護者の皆様にもぜひ一考いただきたいと存じます。ちなみに我が家でいわゆるフィーチャーフォン（従来型携帯電話）を持っているのはとうとう私だけになってしまいました。  
<笑？ それとも 涙？>

